鈴鹿サーキット レーシングスクールセンター
HRS事務局
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
TEL. 059-378-1617

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿（HRS鈴鹿）Formula Class 2026年度 Formula Classスカラシップ最終選考会のご報告

拝啓　秋涼の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業に格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、「ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿（HRS鈴鹿）」では、2026年度「Formula Classスカラシップ選考会」の最終カリキュラムを10月27日（火）・28日（水）に行いました。「アドバンスコース」より選抜した精鋭を対象とし、Honda育成ドライバーを選出する「スカラシップ選考会」は今回をもって全2回・延べ4日間（コース使用合計16時間）におよぶ全行程を無事終了することができました。これもひとえにご協賛・ご協力いただきました各社の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げるとともに、ここに開催のご報告をさせていただきます。

今後も当社は世界に通用するドライバーの育成を目標に活動を続けて参ります。引き続きご理解・ご協力賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

敬具
2026年10月28日
ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿事務局

●2026 ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿（HRS鈴鹿）Formula Classスカラシップ選考会 最終カリキュラム・発表会 開催概要

■日時：　2026年10月27日（火）・28日（水）
■概要：　10月27日（火）フリー走行／計測走行（2セッション）／セット走行 第1ヒート・第2ヒート
10月28日（水）フリー走行／計測走行（2セッション）／セット走行 第1ヒート・第2ヒート・第3ヒート
スカラシップ獲得者発表会
■参加：　Principal…佐藤琢磨
（敬称略）Director…佐藤浩二
Chief-Instructor…野尻智紀
Instructor…加藤寛規・武藤英紀・小林崇志・佐藤蓮・小出峻・野村勇斗
Physical Coach…鎌田貴
Support Driver…百瀬翔選手・土橋皇太選手・黒沢和真選手
Formula Classスカラシップ候補生…塩田惣一朗・小野原悠・Simon Bulbarella・杉田悠真・加納康雅



カリキュラム最終日の朝、スクール専用フォーミュラカー「HRS-F24」を囲んでInstructor陣と最後の集合写真撮影を実施

鈴鹿サーキット レーシングスクールセンター
HRS事務局
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
TEL. 059-378-1617

HONDA
HRS SUZUKA Honda RACING SCHOOL
SUZUKA CIRCUIT

鈴鹿サーキットを専有、HRCトップドライバーと同時走行するスキル向上特化型プログラム＝「スカラシップ選考会」

入門用マシンであるフォーミュラEnjoyの車両を使用し、運転技能を審査する「Formula Class入校選考会STEP1」（延べ2日間）、ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿独自のフォーミュラカーを使用し、運転適性などを審査する「同STEP2」（延べ3日間）。Formula Class入校者の選抜を目的としたその2つの選考会を経て選ばれた8名が2026年度の「アドバンスコース」に入校。全4回・延べ8日間（コース使用合計32時間）のカリキュラムを経てさらに選抜した5名の精鋭が実戦デビューを照準においたプログラム「スカラシップ選考会」へと進出。今回の10月27日（火）・28日（水）の2日間が2026年度「HRS鈴鹿Formula Class」の全行程を終了する最後の日程となりました。

初日の10月27日（火）はまずフリー走行を4セッション（15分間・25分間・20分間×2）に渡って行い、各自路面コンディションとマシンの状態を確認しました。その後、15分間と10分間による計測走行を2セッションに渡って実施し、さらに6周ずつによるセット走行を2ヒートに渡って行いました。

この日は5名の候補生に加え、小出峻Instructor（スーパーフォーミュラに参戦）と野村勇斗Instructor（スーパーフォーミュラとSUPER GTに参戦）、2024年度「HRS鈴鹿Formula Class」修了生である百瀬翔選手（FIA-F4選手権に参戦）、2025年度「HRS鈴鹿Formula Class」修了生である土橋皇太選手（首席で修了してスカラシップを獲得、フランスF4選手権に参戦）、同じく2025年度「HRS鈴鹿Formula Class」修了生である黒沢和真選手（FIA-F4選手権に参戦）が同時走行。

また、佐藤琢磨Principal、佐藤浩二Director、野尻智紀Chief-Instructor、加藤寛規・武藤英紀・小林崇志・佐藤蓮の各Instructorにはコースサイドやピットモニターにて候補生のドライビングをチェックしていただき、走行後に候補生に対してアドバイスを行っていただきました。



通常のカリキュラム同様、走行前は全体ミーティングを実施、佐藤Principalをはじめ、各講師陣から様々な言葉が投げかけられる

TAICHI
Arai HELMET
EARPEACE
EIKO Glory of Karting
EXGEL Motorsport
NGK SPARK PLUGS
ENDLESS Challenge to the Future
HEDC BATTERY
OTK KART JAPAN
OHLINS HAMAMATSU
Sabelt
CCi
SHIBA LIVING JAPAN advanced technology products
ThreeBond
DUNLOP
TODA RACING
TORAY Toray Carbon Magic
重芳
BRIDGESTONE
PETRONAS Syntium
hit-air
mooncraft
rizoma
WAKOS

鈴鹿サーキット レーシングスクールセンター
HRS事務局
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
TEL. 059-378-1617

2セッションの計測走行と3ヒート制のセット走行で「スカラシップ選考会」の成果を証明したカリキュラム最終日

10月28日（水）はいよいよカリキュラム最終日であり、スカラシップ獲得者発表の日。フィジカルトレーニングにて身体のウォーミングアップを入念に済ませた後、いつものカリキュラム同様、走行前全体ミーティングを行いました。ここでは佐藤（浩）Directorより一日のタイムスケジュールの確認が行われた後、佐藤（琢）Principalをはじめとする講師陣から候補生に対して激励の言葉が掛けられました。そしていよいよ最後の走行トレーニングへ。この日も小出・野村の両Instructor、百瀬・土橋・黒沢の各選手が同時走行しました。

まずはマシンの個体差に関係なく確実なドライビングができるよう、初日のカリキュラムで使った車両からランダムに入れ替えられたスクール用フォーミュラカーのペダルの高さや踏みしろを確認した後、フリー走行を実施し、路面コンディションとマシンの状態を確認しながら慎重に走行を開始しました。その後、ニュータイヤに交換し、10分間ずつによる計測走行を2セッションに渡って実施。1セッション目の計測走行では塩田惣一朗（候補生）がトップタイムをマーク。それに野村Instructor、小野原悠（候補生）、黒沢選手、百瀬選手、Simon Bulbarella（候補生）、小出Instructor、杉田悠真（候補生）、加納康雅（候補生）、土橋選手と続きました。続いて2セッション目の計測走行では塩田、野村Instructor、黒沢選手、小出Instructor、百瀬選手、杉田、Bulbarella、小野原、加納、土橋選手のタイム順となりました。

続けてセット走行を3ヒートに渡って行いました。1セッション目の計測走行のベストタイムによって決まったグリッドに並んで行った6周によるセット走行第1ヒートではポールポジションスタートの塩田が良いクラッチミートを披露。それに2番グリッドスタートの野村Instructor、3番グリッドスタートの小野原と続きました。オープニングラップで土橋選手が加納と杉田をパス。2周目には杉田が加納をパスしました。3周目になると隊列がバラけ始め、膠着状態になりかけましたが、5周目のデグナーカーブ一つ目立ち上がりで野村Instructorがコースアウト。それにより小野原が野村Instructorの前に出ると、塩田、小野原、野村Instructor、黒沢選手、百瀬選手、Bulbarella、小出Instructor、土橋選手、杉田、加納のオーダーでチェッカーを受けました。

続いて、2セッション目の計測走行のベストタイムによって決まったグリッドに並んで行った4周によるセット走行第2ヒートではポールポジションスタートの塩田が再び良いクラッチミートを披露してホールショットを奪うと、そのままオープニングラップから後続を引き離しにかかりました。オープニングラップで小出Instructor、百瀬選手、杉田が黒沢選手をパス。土橋選手も加納、小野原、Bulbarellaをパスして順位を上げます。2周目にも順位の変動があったものの、塩田、野村Instructor、小出Instructor、百瀬選手、杉田、黒沢選手、小野原、土橋選手、Bulbarella、加納のオーダーでチェッカーを受けました。

さらに、2セッション目の計測走行のセカンドベストタイムによって決まったグリッドに並んで行った6周によるセット走行第2ヒートではポールポジションスタートの野村Instructor、2番グリッドスタートの塩田のオーダーで1コーナーへ。野村Instructorがオープニングラップから早くも後続を引き離しにかかります。後方では6番グリッドスタートの小出Instructorが4番手まで順位を上げてオープニングラップを終了。8番グリッドスタートのBulbarellaも6番手まで順位を上げます。その後は膠着状態となり、野村Instructor、塩田、百瀬選手、小出Instructor、小野原、Bulbarella、加納、黒沢選手、杉田、土橋選手のオーダーでチェッカーを受けました。



カリキュラム最終日の締めくくりはセット走行。
どのような周回数でも集中力を高く保ったまま最後まで確実にドライビングできる力が身についたかを確認する

鈴鹿サーキット レーシングスクールセンター
HRS事務局
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
TEL. 059-378-1617

HONDA
HRS Honda RACING SCHOOL SUZUKA

SUZUKA CIRCUIT



国内外で活躍するホンダ・レーシング（HRC）のトップドライバーと同時走行し、本番レースさながらの実践トレーニングとなったセット走行



トップカテゴリーで活躍する現役HRCドライバーからアドバイスを直接受けられるのが「HRS鈴鹿」の最大の特徴

TAICHI
Arai HELMET
EARPEACE
EIKO Glory of Karting
EXGEL Motorsport
NGK SPARK PLUGS
ENDLESS Challenge to the Future
HEDC BATTERY
OTK KART JAPAN
OHLINS HAMAMATSU
Sabelt
CCi
SHIBA TUNING JAPAN advanced technology products
ThreeBond
DUNLOP
TODA RACING
TORAY Toray Carbon Magic
亀井
BRIDGESTONE
PETRONAS Syntium
hit-air
mooncraft
rizoma
WAKOS

鈴鹿サーキット レーシングスクールセンター
HRS事務局
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
TEL. 059-378-1617



この日のコンディションに合わせ、フリー走行ではピットINを繰り返し、空力パーツやサスペンションのセッティングを変更。その後の計測走行でタイムを出そうという意志の現れだ



世界最高峰のモータースポーツを経験してきたPrincipalが自ら候補生の取り組みを常に見守ると同時に直接アドバイスも受けられる、他には代えがたいカリキュラムだ

鈴鹿サーキット レーシングスクールセンター
HRS事務局
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
TEL. 059-378-1617

世界のモータースポーツシーンでの活躍を目指す「HFDP」のスカラシップ獲得者を発表

レベルの高い競争の中、レースを優位に戦うためのドライビングテクニックはもちろん、レースと向き合う心構えなども教えるべく、4ステップのカリキュラムとして進めてきた2026年度の「HRS鈴鹿Formula Class」も今回のカリキュラムをもって全ての日程が無事終了。その集大成として、この日までの延べ4日間で行った「スカラシップ選考会」での成績をもとに講師陣による協議を行い、2026年度のスカラシップ（奨学制度）獲得者を決定。その発表を行いました。

スカラシップ獲得者発表会では、まず株式会社ホンダ・レーシング（HRC）代表取締役副社長の安田啓一様よりご挨拶をいただき、その後、HRS鈴鹿Formula Class Principal兼HRCエグゼクティブ・アドバイザーの佐藤琢磨氏から優秀な成績を納めた塩田惣一朗（首席）と小野原悠（次席）を2026年度のスカラシップ獲得者とすることが発表されました。塩田と小野原はHondaのドライバー育成プロジェクト「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト（HFDP）」の選出ドライバーとして育成カテゴリーに参戦予定です。

ご承知の通り、「HRS鈴鹿」出身者には佐藤琢磨Principal（1997年度修了）をはじめ、角田裕毅選手（2016年度修了）、岩佐歩夢選手（2019年度修了）、さらに近年では、今回Instructorとして同時走行を行った野村勇斗選手（2021年度修了）、2023年度修了の加藤大翔選手など、国内外で活躍するドライバーが数多くいます。彼らに倣って今回の受講生たちも成長していくことが期待されます。今後も「HRS鈴鹿」の卒業生たちの活躍にご注目願います。

●佐藤琢磨Principalのコメント●

『1年間お疲れ様でした。そしてスカラシップを獲得した2名、おめでとうございます。この2名を選んだのは現段階での評価の結果です。選ばれなかった候補生もこれで将来が決まったわけではありません。大切なのは努力を続けることです。夢を持っている限り、目標を定めればそれは少しずつ前に進んでいきます。なにもしなければ安全です。なにも起きない。失敗もしない。しかしそこで学ぶものはなにもありません。経験がないことに挑戦するから失敗もするけれど、そこで学ぶことがあるのです。このプロセスの繰り返しが大切なのです。限界に挑戦することでチャンスに繋げていくのです。皆さんも努力を続けて欲しいと思います。絶対にあきらめないで頑張って欲しいと思います。このスクールは来期よりホンダ・レーシング・ドライバーアカデミーとして生まれ変わります。若いドライバーのさらなるサポートができるよう、私たちも努力していきたいと思います』



修了式後の集合撮影

鈴鹿サーキット レーシングスクールセンター
HRS事務局
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
TEL. 059-378-1617

●2026年度 HRS鈴鹿Formula　Classスカラシップ獲得者のコメント●

◇首席：塩田惣一朗（シオダソウイチロウ）　17歳／神奈川県出身

【主な経歴】

●2022年
ROTAX GRAND FINALS Junior MAXクラス／日本代表
●2024年
全日本カート選手権FS-125クラス参戦／最高順位1位・シリーズ3位
ROTAX MAX CHALLENGE鈴鹿シリーズSenior MAXクラス参戦／最高順位2位・シリーズ4位
●2025年
ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿Formula Classアドバンスコース入校
●2026年
ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿Formula Classアドバンスコース継続
FIA-F4選手権参戦／最高順位1位・シリーズ7位 ※第12戦終了時点（全14戦）

【コメント】

『首席を獲得できで嬉しいです。物心ついた頃にはレーシングカートをはじめ、その頃からF1ドライバーになってワールドチャンピオンを獲得することが夢でした。まずはそのスタートラインに立ったと考え、さらにここから技術と人間性を磨いていきたいです』

◇次席：小野原悠（オノハラユウ）　17歳／大阪府出身

【主な経歴】

●2023年
JAFジュニアカート選手権鈴鹿シリーズJunior MAXクラス参戦／最高順位4位・シリーズ7位
ROTAX MAX CHALLENGE瑞浪シリーズJunior MAXクラス参戦／最高順位7位・シリーズ12位
ROTAX MAX FESTIVAL in瑞浪Junior MAXクラス参戦／4位
●2024年
ROTAX MAX CHALLENGE瑞浪シリーズSenior MAXクラス参戦／最高順位11位・シリーズ26位
●2026年
鈴鹿・岡山S-FJ選手権参戦／最高順位1位・シリーズ2位
●2022年～2024年
ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿Kart Class在籍

【コメント】

『首席を獲得するつもりで一年間努力してきました。首席ではなくて悔しいです。この悔しさをバネに今後に活かしていきたいです。スクールを通じて改善しなければいけないところがいくつか見つかりました。自分にはまだまだ伸びしろがあると信じています。それらの課題を着実に改善し、夢であるF1ドライバーになりたいです』



2026年のスカラシップを獲得し、2027年度「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト（HFDP）」の育成ドライバーとしてレースに参戦することが決定した塩田惣一朗（写真左）、佐藤琢磨Principal、小野原悠（同右）

鈴鹿サーキット レーシングスクールセンター
HRS事務局
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
TEL. 059-378-1617



「HRS鈴鹿Formula Classスカラシップ獲得者発表会」の模様。緊張する瞬間だ

「HRS鈴鹿Formula Class」は2027年度より「Honda Racing Driver Academy（ホンダ・レーシング・ドライバーアカデミー）」へと名称を変更し、新カリキュラムを開始します。これまでは春から夏にかけて「アドバンスコース」を実施し、その受講生の中から選抜した候補生を対象に、秋に「スカラシップ選考会」を開催するという年間スケジュールでしたが、「ホンダ・レーシング・ドライバーアカデミー」ではこれまでと同等の走行時間を確保しながらカリキュラムを夏までに完了し、スカラシップ生を選抜。下半期はスカラシップ獲得者を対象とした集中特化の新カリキュラム「即戦力強化プログラム」を展開します。

この「即戦力強化プログラム」では翌シーズンのレース参戦における早期活躍を目標に、スカラシップ獲得者それぞれの課題や目標に合わせたトレーニングプログラムをHRCがパーソナライズして実施し、実戦で即戦力となるレーシングドライバーの育成を進めます。また、フランスF4へのスポット参戦、国内外レースへのテスト参加などのカリキュラムも導入します。